

国立国会図書館東日本大震災アーカイブ (ひなぎく) の10年

国立国会図書館電子情報部主任司書
中川 透

デジタルアーカイブ学会 第6回研究大会第2部
東日本大震災アーカイブシンポジウム
－リアルとデジタルのアーカイブの意義と未来－
日時：令和3年10月15日（金）
場所：東北大学災害科学国際研究所 多目的ホール

震災後10年間の主な動き①

平成23年3月	・3.11 東日本大震災発災
5月	・「復興構想7原則」(東日本大震災復興構想会議) ⇒原則1:震災記録の保存・分析・伝承・発信
7月	・「東日本大震災からの復興の基本方針」(東日本大震災復興対策本部) ⇒震災記録について、誰もがアクセス可能な一元的に保存・活用できる仕組みを構築すること
11月	・平成23年度三次補正予算成立
平成24年4月	・「ひなぎく」開発開始 ⇒総務省と国立国会図書館が分担開発
5月	・「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ構築プロジェクトの基本的な方針」策定 ⇒国全体で「分散収集」「分散保存」
6月	・災害対策基本法の一部を改正する法律(平成24年法律第41号)公布・施行 ⇒災害教訓を伝承することが住民の責務として明記
9月	・総務省による「被災地域におけるデジタルアーカイブ構築・運用に関する実証調査」開始 ⇒運用モデル実証事業として、5つのアーカイブを構築
平成25年3月	・「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)」公開

震災後10年間の主な動き②

平成25年5月	・総務省「震災関連デジタルアーカイブ構築・運用のためのガイドライン」公開 ・総務省「被災地域記録デジタル化推進事業」開始 ⇒自治体が主体となって、5つの震災アーカイブの構築が開始
平成28年3月	・「『復興・創生期間』における東日本大震災からの復興の基本方針」 ⇒・・・ <u>ひなぎくとの連携</u> 、国及び地方公共団体等による震災・復興記録の収集・整理・保存等を通じて、復興手法を始めとして復興全般にわたる取組の集約・総括を進める。
4月	・「復興・創生期間」(平成28年度～令和2年度)開始
9月	・「ひなぎく」システムリニューアル
令和3年1月	・「ひなぎく」システムリプレース
3月	・「『復興・創生期間』後における東日本大震災からの復興の基本方針」 ⇒・・・東日本大震災の記憶と教訓を次の世代に伝え、今後の防災・減災対策や復興に活用するため、 <u>ひなぎくとの連携</u> 、国及び地方公共団体等による震災・復興記録の収集・整理・保存等を通じて、効果的な復興の手法・取組や民間のノウハウ等を取りまとめ、幅広く関係機関への普及・啓発を図ることで、各機関における体制構築及び災害対応能力の向上に資する

ひなぎくの連携先

49 機関、**55** データベースと連携 検索可能データ数: 約 **496** 万件
(国立国会図書館のデータベースを含む) 令和3年10月11日現在

地方公共団体

- 青森震災アーカイブ（八戸市・三沢市・おいらせ町・階上町）
- いわて震災津波アーカイブ～希望～（岩手県）
- 久慈・野田・普代震災アーカイブ（久慈市・野田村・普代村）
- 東日本大震災アーカイブ宮城（宮城県及び県内市町村）
- 郡山震災アーカイブ（郡山市・富岡町・双葉町・川内村）
- 浦安震災アーカイブ（浦安市）
- 熊本地震デジタルアーカイブ（熊本県） 等

図書館

- 震災関連資料コーナー（岩手県立図書館）
- 3.11震災文庫（仙台市民図書館）
- 東日本大震災福島県復興ライブラリー（福島県立図書館）

学術機関

- みちのく震録伝（東北大学災害科学国際研究所）
- 日本災害DIGITALアーカイブ（ハーバード大学ライシャワー日本研究所）
- 福島原子力事故関連情報アーカイブ（日本原子力研究開発機構） 等

報道機関

- NHK東日本大震災アーカイブス
- 河北新報 震災アーカイブ
- 3.11 忘れない FNN東日本大震災アーカイブ

民間

- niconico（ドワンゴ）
- 東日本大震災写真保存プロジェクト（Yahoo!Japan）
- 未来へのキオク（Google）
- 3がつ11にちをわすれないためにセンター（せんだいメディアテーク） 等

ひなぎくとの連携方法

各機関の
デジタルアーカイブ



各機関の
メタデータ等



画像・動画等の
コンテンツ



ひなぎくで
一元的に検索

① デジタルアーカイブとのメタデータ連携

⇒「ひなぎく」で一括検索

⇒コンテンツは各アーカイブのサイトに遷移して閲覧

② 図書館蔵書目録等のデータベースとのメタデータ連携

⇒「ひなぎく」で一括検索

⇒一次資料の閲覧は各所蔵機関等へ

③ コンテンツを収集し、「ひなぎく」に投入

⇒「ひなぎく」で一括検索

⇒「ひなぎく」の画面で閲覧（一部、館内限定公開あり）

※コンテンツのデータは「ひなぎく」の電子書庫に保存

ひなぎくの直近の動き

○未連携アーカイブとの新規連携

令和3年9月

「震災アーカイブ検索」(いわき震災伝承みらい館)

令和3年10月

「人と防災未来センター情報検索システム」(人と防災未来センター資料室)

※その他、「災害記念碑デジタルアーカイブマップ」(防災科学研究所)、「阪神淡路大震災の取材映像アーカイブ」(朝日放送テレビ)との連携に向けて調整中

○閉鎖アーカイブの承継

令和3年3月

「農林漁業協同組合(農協・漁協・森林組合)の復興への取組み記録
東日本大震災アーカイブズ」(農林中金総合研究所)

「赤十字原子力災害情報センターデジタルアーカイブ」
(赤十字原子力災害情報センター)

ひなぎくの今後

○閉鎖アーカイブへの対応

震災後10年を迎え、アーカイブの閉鎖を検討する機関が増えてきている

アーカイブ活動が継続困難となり、他に適切な承継機関等が見つからない場合に、ひなぎくがその記録等を受け継ぐ

- ひなぎくにデータを承継することについて、承継元機関において、著作権・肖像権等の権利者から許諾又は同意を得られていることが前提
- メタデータやコンテンツ等、データの承継であり、システムの承継ではない
- 承継されるメタデータは、ひなぎくにマッピングされたものであり、オリジナルとは異なる点がある

○利活用の促進

検索できるメタデータ数が増えてきて、必要な情報が見つけづらくなっている

膨大なデータの中から必要な情報を見つけるための工夫が必要

- 「地震年表」「テーマ別検索」「東日本大震災 被災地の記憶」等を公開